

# 魚病対策の迅速化に向けた更なる対応

## 前回の協議会でのご提言への対応状況

- ・ 前回（第7回）魚病対策促進協議会でのご提言につき、以下のとおり対応を進めているところ。

ご提言	対応状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 既に認証を受けた魚類防疫士の再教育、この辺をしっかりやらないと、獣医師の方のスキルアップにもなかなか対応できないだろう。</li></ul>	令和4年度予算により、一定の実務経験のある魚類防疫員を対象とした以下の研修を実施する方向で準備中。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 豊富な診療経験・実績を有する水産試験場魚病担当者を講師に招いた研修（レジェンド研修）</li><li>・ 都道府県水産試験場での実地研修</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各地方公設試では、それぞれの工夫でいろいろな資料を持っている。情報共有するとなれば、個別の対応は限界があり、どうやって共有していくかというシステム作りを今後の課題として是非考えていただけたらと思っている。</li></ul>	令和4年度予算により以下を実施する方向で準備中。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各都道府県が所有している資料を集約し、各県へ共有</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 少しずつでも結構なので、種苗あるいは製品サイズの流通経路というのは、調べていくべきではないか。</li></ul>	主要魚種の主な流通経路について、都道府県、養殖業者等を対象とした聞き取り調査を実施する方向で準備中。
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今の総体的な考えからして、養殖業界には非常に有益な方法であるため、我が国もオートジーナスワクチン<sup>※</sup>について御検討いただきたい。</li></ul> <p>※オートジーナスワクチン：生産現場で流行している細菌等の株を使用し、原則獣医師の指示に基づき、当該現場に限定して作成したワクチン</p>	オートジーナスワクチンについて、他国（EU、米国等）の制度や利用の実態について調査を開始したところ。